

論文要約

中国山東省における大学生
のキャリア意識に関する研究

広島大学大学院人間社会科学研究科

教育科学専攻 教育学プログラム

教育学コース

D203011 成 倩倩

本研究の目的は、中国の学生のキャリア意識が、大学類型によっていかに異なるのかを明らかにすることである。事例として、中国の山東省¹に焦点を当てる。

この目的を達成するため、本論文では次のような課題を設定した。第1に、実証的な調査に基づき学生のキャリア意識の実態を明らかにする。第2に、地方大学生に着目して、大学類型によるキャリア意識の差異とその規定要因を明らかにする。第3に、大学院進学希望者を対象とし、学生の大学院進学希望の要因、また、大学院修了後の就職希望などを含む学生のキャリア意識を検討する。第4に、学生の大学でのキャリア支援に対する認識や評価を検討することで、学生のキャリア形成に関するニーズを明らかにする。これら四つの研究課題に取り組むことで、中国の学生のキャリア意識を多面的に明らかにしたい。

各章の概要は次の通りである。

第1章では、中国での学生の就職問題をめぐり政府により提出された政策の変遷を概観した。中国の就職問題に最初に関心を持ったのは研究者であった。政府は研究者の指摘を受けて就職問題に注目するようになり、一連の取り組みを始めたのは1990年代に入ってからであった。当初の政策は就職率の向上により問題解決を図ろうとするものであったが、その後、大学でのキャリア支援の徹底へとシフトした。

第2章では、学生のキャリア意識に関する中日の先行研究を整理することでその到達点を示し、本研究の課題を提示した。中国の学生のキャリア意識に関する研究は、大まかにマクロな視点、ミクロな視点、および両者を接合した高等教育機関、とくに学生の研究という三つの視点にまとめられる。また、日本の先行研究の視点や研究方法と比較すると、中国の先行研究では大学や学生の多様性が考慮されていないことが重要な課題である。

第3章では、調査の概要について整理した。調査対象となった大学の概要は次の通りである。本研究で分析するアンケート調査は、2021年3月2日から3月20日にかけて、中国の山東省にあるA大学、B大学、C大学、D大学、E大学という五つの大学で、1,456名の学生を対象として実施した。

第4章では、単純集計にもとづき、学生のキャリア意識を検討した。その結果、学生は以前とは異なるキャリア意識を持っており、雇用されるのではなく、起業や自営などに関心を持っている者が多いことがわかった。また、学生は将来の就職に向けて積極的に準備しているが、関連する情報が不足している。

第5章では、大学ランクによる学生のキャリア意識の差異を検討した。その結果、とくに卒業後の就職希望に、大学ランク間で大きな差異がみられた。つまり、大学ランクが高いほど、高い社会的地位を求め、将来の就職のため積極的に準備し、卒

¹ 中国の行政区分は省級（第一級行政区：直轄市、特別行政区、自自治区を含む）、地級（第二級行政区：地級市、区など含む）、県級（第三級行政区：市轄区、自治県を含む）、郷級（第四級行政区：鎮、街道などを含む）の4段階である。つまり、省>市>県>鎮>村となる。

業直後の就職を希望する学生が多い。

第6章では、山東省内で地域による学生のキャリア意識の差異を検討した。分析の結果、同じ山東省でも地域により学生のキャリア意識は異なっており、とくに、「地方中心都市」（省の経済と文化の中心となる都市であり、それ以外の都市を「地方周辺都市」と呼ぶ）の学生ほど大学院への進学志向が強くなり、社会的地位が高いキャリアを求めている。

第7章では、学生の視点から見たキャリアに関するニーズ、つまり、大学によるキャリア支援の状況を検討した。その結果、総体的に学生は大学でのキャリア支援に対する利用度が低く、その効果をあまり評価していないことが明らかになった。また、大学ランクが低いほど、学生の利用度とその効果に対する評価が低くなっていた。全国重点大学の学生は就職や卒業後のキャリア形成に対する支援を求めている。地方重点大学の学生は進学に関する指導を求めている。地方非重点大学の学生は就職に対するキャリア支援を求めている。

また、大学類型によってキャリア支援に対する学生の意識が分化しているのは、大学の社会的位置づけの違いが重要な要因の一つであると考えられる。中国のいわゆる深刻な学歴社会、つまり、大学が難易度によって序列化されていることがキャリア支援に対する意識が分化する要因になっている。

終章では、学生のキャリア意識が大学類型によっていかに異なるのか、という本研究の議論を総括し、主要な知見と本研究の意義、今後の課題を提示した。第一に、先行研究で検討されなかった、大学類型による学生のキャリア意識が異なることを実証的に検証した。第二に、新たな研究の視点により中国の高等教育研究の課題を提示した。本研究により、大学類型により学生のキャリア意識が大きく異なっていることを明らかにした。重点大学の学生は卒業直後に就職を希望するとともに、長いスパンで自身のキャリアを計画している。また、地方の中心都市の学生は、大学院への進学意識が高く、学歴の獲得により高い社会的地位を実現しようとしている。第三に、大学生のキャリア意識形成のメカニズムは、シグナリング理論の観点から解釈できることを明らかにした。第四に、大学による支援策の改善に一定の示唆を与えられることである。